

2006年 4月15日

歓迎します！ あなたの来訪

大和市民活動センター

「新しい公共」・「市民活動」を
推進、応援、共育する施設です

☆折りこみ：声プロジェクト・インタビュー

「点図サークル オーロラ」「NPO法人 IHTB」「やまとケナフの会」「地域通貨 クラママ」

〜〜『ティーパーティーのお知らせ』~~~~ ●ご参加をお待ちしています● ~~~

大和市民活動センターで行われています “ティーパーティー”
(毎月第1土曜日 10:00~12:00 無料)を 特集で取り上げました。

皆さんと気楽に意見の交換をしながら、地域活性化や
市民活動のヒントが聞けたら。そんな思いの集まりです。

<今後の予定>

5月 6日(土) 第8回 団塊世代のパワーと市民活動 パートⅣ
教育・環境づくりは”団塊世代の皆さんも”

6月 3日(土) 第9回 団塊世代のパワーと市民活動 パートⅤ
我がまち大和“今こそ団塊パワーを”

どなたでもお気軽にお寄りください。

発行： 大和市民活動センター 〒242-0021 神奈川県大和市中心 1-5-1

Te l / Fa x : 046-260-2586 e-mail: yamato@ar.wakwak.com

URL : <http://park23.wakwak.com/~youkoso/>

土曜の昼はティーパーティー

大和市民活動センターでは市民活動の輪をもっと大きく広げようと
毎月1回ティーパーティーを開いています。
今回はそのティーパーティーをご紹介します。

ティーパーティーの始まりは『気楽に楽しく』

大和市民活動センターでは、具体的活動を推進するために「交流部会」を立ち上げました。当初「交流」とは何をしたらいいのかメンバーも皆目わかりませんでした。「講師を呼んで市民活動の講義をしてもらおう」とか、「市民活動団体の交流会をしてみよう」とか、いろいろな案が出ました。しかし、現状のメンバーの経験からして力不足が否めません。そこで、“とりあえずできること”から始めようということになりました。

“気楽に楽しく気張らないで”、その代わり人が集まらなくても、話があまりまとまらなくても、気にせず続けていこうということになりました。

『継続は力なり』……広がる市民活動の輪

第1回のテーマは「地域で支える子育て」。運営委員・事務局スタッフ中心に、関心のあるグループに呼びかけられました。人数も集まり、突っ込んだ内容の話がされました。

2回目は「地域で守る地域の環境」。環境という大きなテーマでしたが、自称“地域のお節介おばさん”から「地域で気軽に子どもたちに声をかけたり、犬の糞公害について麻布獣医大学と協力して解決策を探る場を作る」という話が出てました。

3回目は「地域で考える情報化社会」、4回目は「健康スポーツと市民活動」と続き、テーマにかかわらず大和市に長く住んでおられる方々も集まって、“今までやってきたこと”、“これからやってみたいこと”を丁々発止と弾む会話で、熱い思いを語られました。

そして第5回、それからリクエストにお答えして第6回と「団塊世代のパワーと市民活動」パートI、IIの開催。「これからの市民活動には“団塊世代のパワー”がぜひとも必要!」という強い要望から実現しました。これこそ私たち自身の問題、地域に住む私たちに突きつけられている問題です。話はいよいよヒートアップしてきています。

大和の“土曜サロン”

「市民活動」といっても、いったいどこから携わったらいいかかわからない人が多いのでは。一部の特殊な人が活動しているものと、思う人もおられるでしょう。しかし何かをしてみたいというそんな人に「ティーパーティー」を広く呼びかけていけたらいいなと思っています。まず、参加してみて、雰囲気や情報を得てみてください。そして私たちもそこで、ネットワーク作りやそのお手伝いができたらと思っています。

今後、事務局から神奈川新聞や広報やまと、ミニコミ誌などにもPR記事を発信していければ、「市民活動センターで第1土曜日に何か楽しいお茶会をやっているんだよ」ということが徐々に広まっていくことになるでしょう。

さらには私の夢ですが、土曜になると大和のコミセンや学習センター、その他集会所などで市民が集まり、お茶を飲みながら市民活動や市民協力の話ができる「ティーパーティー」が開かれるようになればと願っています。

協働の拠点運営委員 交流部会 友部 浩



「ティーパーティー」はこんな風にできました!



「共育」の場になれたら!

☆第2回交流部会(2005年5月7日)こんな意見が出ました。

- ・市民活動の皆が気楽に話し合える場が欲しい。
- ・市民活動センターをもっと皆さんに知ってもらおう。
- ・市民団体間の“出会いの場”ができたらなー。
- ・周辺の皆さんと“懇親会”をしよう。
- ・将来の活動への糧として勉強会も兼ねて皆さんの意見を聞こう。

まずは やってみよう!

☆第1回ティーパーティー(2005年7月2日)に向けて意見の交換をしながら運営委員会で活動主旨を発表しました。

- ・市民活動に取り組んでいる諸団体・個人にセンター利用を促すきっかけづくりとして場の提供をおこなう。
- ・自由闊達な情報交流のできる運営を目指す。
- ・未だセンターを利用されていない団体への案内を中心にセンター登録団体やリピーターの拡大につなげていきたい。

ティーパーティースケジュール

2005年

- 7月 2日 第1回 地域で支える子育て
身近な地域の子育て問題
- 9月 3日 第2回 地域で守る地域の環境
身近な環境・身のまわりの環境
- 10月 8日 第3回 地域で考える情報化社会
身近な“IT”市民活動と“IT”

2006年

- 1月14日 第4回 健康スポーツと市民活動
スポーツを通じて輪の広がりを
- 2月 4日 第5回 団塊世代のパワーと市民活動
あなたの経験が地域活性化の原動力に
- 3月11日 第6回 団塊世代のパワーと市民活動 パートII
何かをやる、市民活動へのきっかけ
- 4月 1日 第7回 団塊世代のパワーと市民活動 パートIII
地域のゴミ問題 あなたに出来る事
- 5月 6日 第8回 団塊世代のパワーと市民活動 パートIV
教育・環境づくりは“団塊世代の皆さん
- 6月 3日 第9回 団塊世代のパワーと市民活動 パートV
我がまち大和“今こそ団塊パワーを”

『団塊世代のパワーと市民活動』が5回のシリーズとなり4月1日の会では「情報交換・意見交換を通して学び、より良い地域社会をつくる為に自ら何が出来るか、何をしたら良いか学ぶ。更に市民として何が出来るかと思うきっかけのティーパーティーでありたい。」という意見が出ました。

これからも“皆さんが意見を言える場”“気楽に参加できる場”“何かのヒントになる場”でありたいと思います。このような集まりが重なって市民活動の輪が更に大きくなっていけばと願っています。

皆さんからの意見

テーマをしぼって欲しかった。

知らない他団体の話が参考になりました。

皆が自由に意見交換ができて有意義だったと思います。

同じ様な活動をしている人々、団体が集まっての情報交換は大和市の市民自治区の考えにも共通すると思います。今後とも是非続けていただきたいと思います。

結論の無いおしゃべりで良いのか？話した事に対して市民活動センターは何をしてくれるのか？

忙しい中呼ばれたけれど、もっと突っ込んだ意見はないものか？ただのお喋りでいいものか？

自由に話せる雰囲気良かったと思います。

もっと広報をして、仲間を呼んでください。

毎月の第1土曜日は都合が悪い。他の日にできないか。

センターをどう利用したら良いか未だ理解していません。今後はこのようなイベントに参加しながら理解して行きたいと思います。

人の意見が面白くて有意義でした。また次も期待しています。

市民に愛されるティーパーティを目指して

既に7回行っているティーパーティです。もっと“活性化”できないでしょうか？市民活動センターを利用される団体からの後押しに支えられて「へー！結構やるもんだ！」というセンターを、そろそろ知られるようになったらと思う大和市民でもあり、運営委員でもあります。

「市民活動」についての認識はさまざまで、運営委員の間も然り。皆さんとの共育・勉強に努めています。当初、内々で何か話し合いを始めようという声があがり、さらに市民活動団体のお仲間も呼んでお茶を飲みながら…ということでティーパーティは進んでいきました。そして、“場の提供”を背景に広く呼びかけを行いました。はじめるに当たり賛否両論あったものの、気がつけば7回の継続となりました。

「新しい公共」の中で大和市民活動センターが生まれましたが、どんな“活動の場”にできるのか、どのように“共育”を進めていくのか、歩みながら考えています。そしてこれから、ティーパーティを広めるには一工夫も二工夫もしくなくてはなりません。

市民の皆さんに“愛称”をつけてもらい、気楽に寄れる“集まりの場”になればと思います。桜吹雪のなか、咲くだけで人の集まる桜を見ながら思いました。

協働の拠点運営委員 広報部会 小宮山利恵子

「1年を振り返って」

大和市民活動センターも、一昨年11月の開設以来、満1年半を迎えようとしております。「協働の拠点」という位置づけで設立され、行政と市民（協働の拠点運営委員会）との協働事業として運営されてきた経緯もあり、ユニークな一面もあります。当初から行政と市民との「協働」並びに「共育」を基本理念として掲げていましたが、最初は何から手をつけたら良いのかさえ分からない、手探り状態での出発でした。

過去1年半の間に、他都市のサポートセンターへ勉強に出かけたり、各種の講習会・セミナー等にスタッフ及び運営委員が参加するなどして、見聞を広めました。最近では来訪者への対応もスムーズになり、情報発信はもとより、イベントなども企画・実施できるところまで、成長したように思われます。

最初の5ヶ月間で、わずか700名余りだった延べ来館者も、2005年度は3500人を超えるまでになりました。登録団体も130余を数え、1つしかない会議室や印刷機などの利用も活発になってきました。

当センターは大和市民に限らず、近隣各都市在住の方も良く利用されているようです。活動エリアが市内に留まらず比較的広域にわたる活動が多いことも理由の1つでしょうか。4月より3年次目に入りますが、当センター運営の基本理念

「ゆるやかな連帯、しなやかな対応」

市民活動センターの事務局スタッフとしての様々な人との出会いは、今まで見えなかったことが見えてきたり、人って面白い！と実感できるなど、なかなか刺激的な暮らしになっています。

今まで、いろいろな場面でいろいろな人に出会ってきて「人ってなんてステキなんだろう！」と素直に思えるのは、人間は本来“善”からのスタートで思考し行動しているから、そう思えるのだと気づきました。

人と人が共通の目標をもつことでつながり、拡がって、暮らしやすい地域になる、これが市民活動だと思ふのです。難しい理論など必要ではなくて、そこに少しのやさしさと思いやりがあれば人にやさしい暮らしが実現するのです。

市民活動センターで行われている「ティーパーティー」は人と人の出会いの場であり、ゆるやかな連帯のはじまりの場なのです。堅苦しいことは抜きにして、ふっと肩の力を抜いてやさしい気持ちで談話しましょう、ということなのです。どなたでもご参加いただいて気軽に会話を楽しんでいただきたいのです。事務局スタッフとしてはしなやかな対応を心がけて、つながりの輪をひろげていきたい、と思っています。

大和市民活動センター事務局次長 石川美恵子

は継続しつつも、新たに「社会資源の創出」を主要な柱として、諸々の企画・調査・啓発活動などを進めて参ります。

地域の特徴を活かした、「協働の拠点」としての市民活動センターでありたいと願っております。

大和市民活動センター事務局長 間瀬富隆

大和市民活動センターご案内

●「ホームページ」 URL:

<http://park23.wakwak.com/~youkoso/>

こぼれ話

「この1年」
～4月からは新会計年度～

県のネットワークで各市の支援センターのスタッフ・行政職員と知り合うことができました。感謝しています。

研修はもちろん真面目に受けるのですが、区切りの懇親会では本音が出ます。異動したての行政職員がおっしゃいました。「市民活動をしている人とはどうもDNAが違うみたい...」 私は「遺伝子組み換えしたら～」とつぶやきました。

皆さま、怒らないでご協力願います。

協働の拠点運営委員会 副会長 関根孝子

協働の拠点運営委員会には相談・交流・研修・広報の4つの部会があります。各部会には事務局スタッフも入り、逆に私は運営委員会から事務局スタッフにお邪魔しました。

<冬> センターが立ち上がりました。寒い木枯らし、寒い財政、寒い知名度・・・確か、小杉会長の第一声「センターは空の”器”です。これから皆さんと共にこの引き出しに市民活動の中味を詰め込んで行きましょう」私にとっての“共育”がはじまりました。

<春> 皆さんと一緒に「ニュースレター」「広報誌」「チラシ」「看板」とPR活動が盛んになってきました。それと共に”場の提供”の意味も段々と分かってきました。特に経験者からの企画アドバイスは為になります。センターにいて色々な人たちと”挨拶”できることは嬉しい事です。

<夏> このシンボルは「大きなイチョウ」です。そして道沿いの「花で包まれたコブシ」「見事なケヤキ」です。ある暑い日、無残に幹を切られた大木が柱となって立っていました。木陰が無くなり窓とカーテンは閉めっぱなしになりました。色々な環境NPOの方々の意見を身にしみて体験しました。

<秋> 実りの秋、イベント、祭り、発表会などが続きます。このセンターも登録団体の皆さんと一緒に何か企画したい気分で駅周辺のプロムナードの人通りを眺めていました。県のボランティア研修にも出席しました。団塊世代の1人として「背広ネクタイおじさん」の言葉には苦しい、私もまさにその1人でした。

さあ、厳寒の冬も終わって また沢山の花香る春が来ました。残念ながら今年のコブシの花は数える程です。でも木に蓄えられたエネルギーは次の開花を待っている筈です。事務局も運営委員もこれまで育てて来たポテンシャルをもって、市民活動の輪を更に広げる新年度となります様に 協働の拠点運営委員 広報部会 望月則男

お知らせコーナー

～登録されると便利です～

情報の発信

- ・皆さんの活動紹介の場です
- ・館内『掲示板』にチラシを貼れます
- ・小冊子・案内書を使ってPRできます
- ・事務局からメール便をお届けします
- ・『掲示板』をメール便でも連絡します
- ・センターURLのリンクができます
- ・<http://park23.wakwak.com/~youkoso/>
- ・「お知らせ」が事務局から連絡します

情報を皆さんで交換しながら
市民活動の輪を広げて行きましょう！

皆さんのご意見を

事務局に気楽にお伝え下さい
・館内「らくがき帳」に記入ください
・『活動インタビュー』で伝えてください
(昨年「声プロジェクト」発足)
『共育』！
皆さんのご意見で改善に努めます！

もう会計新年度！

昨年8月に事務局に入ってから あつという間の7ヶ月です。広報部会に参加するも昨年度は見習いという感じで、周りの人たちのやることを見ているのが精一杯でした。

新年度からは“自分も”ということでただいま「協働」について勉強中です。またホームページも広報部会と連動して担当していますので、近い内に「協働」についても大きく取り扱いたいと思っています。こちらホームページもごひいきに。 桑原裕之

館内での利用

- ・会議でのパソコン使用ができます
 - ・プロジェクターを用意しました
 - ・DVDスクリーンの画像を見れます
 - ・スピーカー、USBメモリー、外付けのディスク、ラミネーター その他
- 事務局に問合せください

気楽にセンターにお寄り下さい！

貸し出し機器は

他の場所での市民活動となった時

- ・プロジェクター
 - ・スピーカー
 - ・スクリーン
- を外部貸出しています！

熱血編集後記

★広報部会メンバーから★

各号タイムリーな話題を取りあげることができました。自己(満足)評価でした。 関根孝子

あつという間の一年。産声だった市民活動センターも、幼稚園の入園を迎えたというところでしょうか。

今年度もはりきってまいりましょう！ よろしくお祈りします。

広報部会長 中島双美

レターケースは便利

- ・ちょっとした資料をセンターに置けます
- ・皆さんの受け渡し場所としても利用ください

使用登録されれば無料です！

会議室の使用時は

- ・予約・変更は電話でも受付ています
- ・予約はその月を含んだ3ヶ月間先まで
- ・使用料は1時間 200円(約20名)
- ・皆さんが利用できる様、原則1回半日まで
- ・夜間使用の最終は21:00迄です

印刷機は高速

- ・印刷用紙はお持込下さい
- ・用紙が無くなったら1円/A4 2円/A3
- ・コピー機(少量使用)は 1枚10円

使用時の予約は要りません！

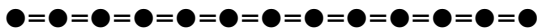
今年の桜はいつにも増して美しく咲いていたような気がします。

特に世話をされなくても毎年忘れずに花を咲かせて、植物って偉いとき々感心してしまいます。 中山みゆき

広報部会は運営委員と事務局スタッフで構成されています。「広報誌」発刊も一つの活動です。皆で寄り集まって、皆で意見を言って・・・原稿、イラスト、編集と 手でこねた団子のように作られていく過程がまた楽しみ！ 望月則男

大和市民活動センター「声プロジェクト」による登録団体へのインタビューが“市民活動の更なる広がり”を目的に行われています。これからも皆さんの活動をご紹介します。よろしくお願ひいたします。

(アンケート集計に基づき、インタビュー順に掲載しております)



「点図サークル オーロラ」

日時：2005年11月29日(火) 13:50~14:50
面談場所：活動現場(中央林間)
面談者：内田、西野、中島

①活動をはじめたきっかけ

以前、点訳の奉仕団に入っていて、点訳のボランティアを行っていた。絵や図を表現することは難しく、触図はすべて人の手で行われてきていた。そんなときPC点図ソフト「エーデル」に出会い、やってみようということになった。

エーデルについて <http://homepage2.nifty.com/EDEL-plus/>
エーデルはフリーのソフトであり、作者はほとんどボランティアアップをしながらソフトを提供されている素晴らしいボランティアです。このソフトとの出会いが、点図を始めたきっかけとなった。発足当初のメンバー2人の目指す方向は一緒だった。

②仲間集め

発足当初(2003.4) 2人→6人(2005.11現在)
東京新聞やタウンニュースに取り上げられたことで、興味を持ってくださった人がいる。活動助成金「めばえ」発表会のときの取材記事

③よかったこと

今まで絵を触って解るように表現することが難しく、また触図には大変手間がかかったため省略されることが多かったが、このソフトのお陰でPC上の作業で表現できるようになりよかったと思っている。裁縫のルレットで描いた電気回路図を、改めて点図で作ったことがあるが、全盲の方でその図に触れて電気製品を作ってしまう人がいる。その人から「点図は大変分かり易い」という言葉をもらったのがうれしかった。同様にカラオケのカナ文字歌詞カードを作り、中途失明者の方に大変よく解ると「頑張ろうね」という気持ちになる。

④抱えている課題

活動のスペースが欲しい。点図を打ち出す機械(JTR-点字プリンター)が置いて、人の出入りができるところ。
参考：JTR <http://www.jtr-tenji.co.jp/>
活動のスペースがないために、やりたいと言う人を受け入れられない状況にある。
点図を打ち出す機械のメンテナンスのお金の問題がある。修理にかかるお金をどうするか。
やっと手に入れたプリンターが壊れてしまったらどうしようという思いがある。紙も特殊。1枚4円。紙や交通費他全て経費は今のところ会員負担。

⑤その他

視覚障害者の方々にも点図の存在はあまり知られていない。私たちには広める役目があると思っている。ちょっとでも点図の普及に役立ちたい。

⑥市民活動センターへの要望

一般の方にも、こういうものがあるという情報を提供して欲しい。

「NPO法人 IHTB」

日時：2005年12月1日(木) 10:00~12:00
面談場所：市民活動センター会議室
面談者：小杉、中島

① 活動をはじめたきっかけ

- 勤めはビルの総合オートメーションメーカーでありさまざまな職種を経験してきたが、空調を制御する設計等の仕事もしていた。
- オイルショックの頃、欧米では室内の空気の汚染について注目され、シックビル症候群が大問題になった。これはそのうち日本でも大問題になるであろうと予想していた。
- 「環境と健康」は密接な関係がある。「インドア エア クオリティ (IAQ)」と言われているが、11年前にはこういう環境と健康を考える企業はほとんどなかった。
- では自分でやろうと思い、話し合いの上で30年以上勤務した会社を定年前に退職してこの活動をはじめた。
- NPO法人IHTBを2003年10月1日に設立。

<以下、早川さん作成の資料より>
「NPO法人IHTBの市民活動」について

1. NPO法人設立目的

「環境と健康」に関する問題は密接な関係があり、切り離して改善することはできない。また、原因は複合的であり総合的に取り組む必要がある。
新時代における環境および健康問題を改善する活動を通して社会に貢献する。

2. 活動目標

環境による複合汚染が次世代に与える影響が危惧される。
「子どもたちが安全に安心して住める環境づくり」に貢献する。
子どもが安心 → 大人も安心 → 高齢者も安心
予防することが目的であり、他の地区から要請されれば、実務者として積極的に対応していく。
地域に関係なく日本全体に共通の問題である。

3. 活動内容

何が問題になっているのかを知り関心をもってもらう。「関心を持つことが予防の第一歩」である。啓発するために出張講師を引き受ける。

- 1) もっとも身近な環境である「室内環境による健康障害の予防と対策」
- 2) シックハウス症候群や新築・リフォーム時の相談
- 3) 次世代を担う子どもたちや母体を環境の複合汚染から守る
- 4) 食生活や生活スタイルを見直し生活習慣病を予防する
- 5) その他、タイムリーなニュースを採り上げる
シックハウス症候群・アスベスト・アレルゲン・耐震強度・設計偽装・食料品偽装・ファーストフードの問題
危険な日用品・タバコの害・胎児の汚染・etc.
- 6) 障害者等への自立提案と雇用の創出に貢献する

②仲間集め

- NPO法人の会員は主として全国の中小の建築設計事務所や工務店である。売り上げの数%を必ず寄付しようというシステムにしている。
 - 現在、収入はゼロであるが、それでも健全な形で継続していきたいと思っている。
 - 講習や講演は自分の身一つでできることである。しかし、それを広めるためには積極的にさまざまな場に参加する必要がある。異業種交流会などに参加し、ネットワークづくりを心がけている。
 - 多くの人材との交流で常に新しい発想を持ち続けたい。
 - さがみはら市民活動サポートセンターのメルマガでは、「一緒にやりませんか?」「協力していただける人はいませんか?」と呼びかけをした。
 - また、さがみはら市民活動サポートセンターを通して、JCOMのL字放送も流している。
- (注) L字放送(複合型情報放送)とは、画面を分割することにより、複数の情報を同時に放送するもの。一般的には本来の番組画面をいくぶん縮小し、左と下の2辺などに文字情報などを入れ込む形で、災害時の緊急放送や選挙速報などに利用される。ケーブルテレビ局のコミュニティチャンネルにおいては、番組映像のほか天気情報やローカルニュースなどで構成されている場合が多く、地域情報を伝える手段として利用されている。

③抱えている課題

- 集客。集客のための仕掛けづくりが課題。
- 身障者の雇用創出にも貢献したい。自立できる場づくりに自治体の理解と協力をいただきたい。
- 1回目の協働事業提案に、現在考えている雇用創出のための提案と似た提案をしているが不採用であった。

※参考資料：協働事業の提案一覧(2003年)受付番号1番
<http://www.city.yamato.kanagawa.jp/katudo/suishinkaigi/jigyo/teian-ichiran.pdf>

④その他

- 一人でも多くの人に環境と健康の係わりを知ってもらいたい。関心を持ってもらいたい。そして救いたい。
- 使命感である。人数も場所もこだわらない。
- 皆と一緒に考えるようにしていきたい。
- 「もったいない」というのがあるけれど、これからは「おせっかい」も必要。

⑤市民活動センターへの要望

- 市民活動は縦割り行政を認めた上で横断的に行う必要がある。コミセンや生涯学習センターなどとの横のつながりをつくる場になって欲しい。
 - 市民の自主性を優先させて欲しい。あくまでも市民が主役である。
 - 他の地区とも積極的に交流の場をつくって欲しい。
 - 幅広い世代が出入りできる明るい場づくりをして欲しい。
 - 参加する団体の自主性をサポートするように。
 - 行政からの独立、行政と対立することではない。
 - 当事者意識を持って自立する。
 - 市民活動センターは管理責任を自ら持つべき。
 - 「前例がない」とは言わない。前例は作るもの。
 - 自己中心的な活動はしない。足を引っ張り合うことになる。前向きに協力し合う活動を推進して欲しい。
- <以下、早川さん作成の資料より>
「市民活動センターの活性化」について

1. 役割と活性化のための条件

- 1) 縦割り行政を横断的に支える役割を担う
- 2) 市民が主役になり、市民の当事者意識と自主性を最優先させる
- 3) 可能な限り制約を少なくする
- 4) 他地区の団体や組織と積極的に交流し、良いことは素直に吸収する
- 5) 老若男女が気軽に参加できる環境(サロン)をつくる

2. 参加団体の心構えと活動センターの運用について

- 1) 活動センターは参加団体の自主性をサポートし、行政は活動センターをサポートする
- 2) 活動センターは市民が主役で行政の下請けになってはならない
- 3) 市民自らが当事者意識を持って自立することが活性化につながる
- 4) 縦割り行政と職員の短期異動（3年以内）という問題が改革されない限り専門家が育たない。優秀な人材が活かされないシステムになっている
- 5) 行政との規定に無いことが生じた場合、活動センターが中心になって決める。活動センターが管理責任を負う条件であれば行政には事後報告でよしとする。行政とのやり取りでいたずらに遅らせてはならない。市が貸しているとしても施設は市民の財産であることを忘れないこと
- 6) 「前例が無い」ということを理由としてはならない。「前例が無ければ前例をつくる」ために知恵を出し努力する
- 7) 所属する団体を優先したい気持ちは理解できるが、お互いに協力し合うことを登録条件とする

「やまとケナフの会」

面談団体：やまとケナフの会
日時：2005年12月6日（火） 14:30~15:30
面談場所：市民活動センター会議室
面談者：関根、望月、中島

①活動をはじめたきっかけ

- 国際ソロブチミストやまとの会員として、国際ソロブチミストの環境委員会が環境を考える研修会の事例発表に参加した。そのときケナフ（※）に出会い、ケナフを広めるために同好会を発足しようということになった。
※ ケナフ[kenaf]とは、アオイ科の1年草。高さ3~5メートルに達し、葉は掌状で長い柄がある。花は淡黄白色。インド・アフリカの原産。茎から黄麻に似た繊維がとれ、綱・魚網・袋などの材料にする。洋麻。
※ 木の代わりに、紙の材料になる（森林の保護）。他の植物に比べ、二酸化炭素の吸収・固定化能力が高い。水中のリン・窒素の吸収が良く、水質の改善効果が期待される、などの特長がある。
- その後、国際ソロブチミストやまとの中で同好会を発足させるのが難しいとわかり、独立した団体として設立した。
※ 現在の代表長谷川さんは発起人でもあるが、代表としては2代目にあたる。

②仲間集め

- 会員は25人。役員を除き、ほとんどが賛助会員である。
- イベントなどに参加される人は、クチコミが多い。商店会や会員、国際ソロブチミストやまとと会員などに声をかけている。
- また、「タウンニュース」などでイベントの情報を掲載してもらい、記事を見たという参加者もいる。
- 「会に入会しませんか？」と声をかけても引いてしまう人が多く、それはなぜかと思っていたが、会に所属することで拘束されるのを嫌がっているようにみえた。
- イベントに参加するリピーターは少ない。

③よかったこと

- 出前講座を開催しているが、小学校や保育園、聾学校などでケナフを取り上げてくれる。
- 毎年必ずどこかで呼んでいただけるのでうれしい。

④抱えている課題

- ケナフのイベントで紙すきなどの体験を一度してしまうと、「もういいや」と思われる人が多いようで、その後継続して参加してもらえない。継続できるような工夫が必要だと思っている。
- 賛助会員ばかりなので、実際に活動をしてくれる協力会員が欲しい。
- 専門家がケナフの栽培をしているわけではない。畑も会員から借りている60坪もの土地だが、何年も連作を続けると土地が痩せてくるようだ。発芽が悪くなってきている。他の作物も作ったりしているが…。

⑤その他

- ケナフを地域で楽しんで作ってもらえたらいいな、と思っている。
- ケナフのよさ~環境について、いろいろな人に知ってもらいたい。

⑥市民活動センターへの要望

- 環境問題を考える市民団体の横のつながりづくりに協力してもらいたい。
- いくつかの団体が合同で環境について取り組み、同じテーマでアイデアを出し合えるようなことがしたい。一団体で行っていくには行き詰まりを感じている。
- 来年は総合的な環境についての講習会を開きたいと思っている。他の団体といろいろな切り口でもっと実践してもらえそうな、きっかけづくりをしていきたい。

「地域通貨 クラママ」

面談団体：地域通貨 クラママ
日時：2005年12月19日（月） 11:30~12:30
面談場所：市民活動センター会議室
面談者：小杉、鈴木、西野、中島

①活動をはじめたきっかけ

- 生協の生活クラブにおいて、自主管理・自主運営という基本方針で自治をすすめるということが行われてきたが、班がなりたたなくなってきた。個人単位になってきたことから、人とのつながりがなくなってきた。
- NHKで「エンデの遺言」という番組を見て感銘を受け、地域通貨を介して人とのつながりを継続していきたいと考え地域通貨クラママを立ち上げた。
- 当初は生協の補助金を受けて活動を開始。
- 設立は2000年11月。
- 地域通貨クラブマネー「クラ」は、サービスを提供できる人、サービスを必要としている人の中でやりとりをするもの。サービスを提供したときには、メンバーカード（クラブマネー・通帳）にサービスの内容とクラの残高が記載されていく。サービスを受けた人はマイナスと記載する。

②仲間集め

- 生活クラブの仲間でも始めた。
- 生活クラブの広報紙に載せてもらいメンバー集めを行った。その後はクチコミ。イベントを開催したとき、友だちを連れてきてもらうなど。
- 運営組織は作っていない。そのときそのときに言い出した人が行く。
- 生活クラブの縦割りの活動がそぐわなかった。
- 登録人数は266人。
- 地域通貨クラママ・メーリングリスト（以下、ML）の参加者は50人くらい。

③よかったこと

- 地域通貨クラママがなかったら人との出会いはなかったと思う。人との出会いがあり、つながりができたことはよかったこと。
- 地域通貨クラママMLでいろいろなお知らせが知ることができている。
- 今年の集中豪雨で各地に被害が出たとき、援助物資をMLで募集したら、2日間で家の前にいっぱい物資が集まった。声をかけたらすぐに反応があり、その力はすごいと思った。気持ちがひとつになったのだと思う。
- 「私のお医者さんⅢ」という冊子を出した。生活クラブの会員にアンケートで推薦医師を聞き、また、医者にアンケートを取ってひとつにまとめたもの。各駅ごとに賛同してくれるお店を見つけ、その冊子販売を協力してもらい、完売した。好評だった。

④抱えている課題

- 地域通貨クラママの広報活動。パソコンを活用し、ブログなどで広報活動を行っていると思ったが、管理費がかかるということがあり継続できない。
- 運営組織を作らず、会費も取っていないためお金がない。
- これからこの活動をどうやって広げていくか。
- 皆の思いを伝えられる場にしたい。誰かが言い出さないとできないことをやっていきたい。
- パソコンが使えない、MLが利用できないという人たちのために、どうやって伝えていけるか。模索しつつ継続している状態。

⑤その他

- 地域通貨クラママは人と人とが声をかけ合う場所。クラで集まったつながりをもとに、一人できないときに声をかけて出てきてもらうネットワークである。
- 全部の活動にみんなが参加する必要はない。やりたい人が声を上げ、やりたいときに参加する。みんながその情報を持っていることが必要。
- 交流会を行い人のつながりを作っている。

⑥市民活動センターへの要望

- 拠点を持たない地域通貨クラママにとって、市民活動センターは拠点の代わりになるもの。そのため借りられるものは借りて活動を行いたい。
※ 例）プリンターにつなげられるパソコン、鉛筆など消耗品、料理ができる場所（それに伴い食器や調理器具など）、パソコン教室ができるくらいのパソコン台数。
- 市民活動センターで地域の人のニーズを聞いてもらいたい。何かを提供してくれる人、何かが欲しい人。その人の声を聞いて欲しい。そして、それをコーディネートとしてつなげて欲しい。
- もっと活動のしやすい場作りをして欲しい。団体の声を聞き、ニーズが多ければ即行動というように、声をつなげて欲しい。
- イベントを開催してもらえるのはよかった。一緒に行うことができたお陰で、外の人が集まってきてくれた。